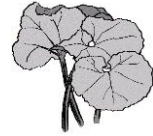


## ヒグマってどんな生き物？

わたしたちがきちんとヒグマのことを理解していたら、恐ろしいだけの生き物ではないことがわかります。ヒグマは肉食だと思いませんか？意外にも、植物中心の食生活を送っているのです。季節ごとのヒグマの生活を、食べ物を中心にしてみましょう。

### 春

4月、冬眠を終えたクマは活動を開始します。芽吹いたばかりのオオブキ、イラクサ、ザゼンソウ、ウドの他、セリ科のオオハナウドやエソニユウ、スゲの仲間などを食べます。冬季間に死亡したエソシカの死体などを食べることもあります。



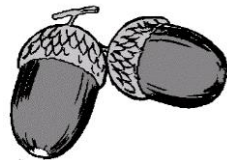
### 夏

夏の間は、春と同様にセリの仲間やオオブキなどを食べますが、ヤマグワやシウリザクラなどの果実も食べ始めます。また、ザリガニやアリなどのほか、巣ごとクロスズメバチを食べたりします。交尾は6月から7月にかけて行われますが、オスとメスが一緒に暮らすことはありません。



### 秋

9月に入ると木の実や種子が重要な餌となります。ウドやタラの果実、オニグルミ、ドングリ、ミズキ、ナナカマド、ヤマブドウ、コケモモなど果実を中心に採餌します。山の実が不作の年は、広く餌を求めて歩くと考えられており、人間の生活圏に入ってくることも多くなります。



### 冬

11月末から12月はじめにかけて、冬眠に入ります。メスグマは、1月から2月にかけて、穴の中で1~3頭の子を産みます。しかし、食べ物豊富にあるなど条件が整えば、冬も冬眠せずに活動すると考えられます。



## ヒグマはどのくらいの大きさ？

ヒグマは、一般にオスの方が大きく、頭からシッポの付け根までは1.6m~2.0m、体重は120kg~300kg。メスは1.3m~1.7m、体重は90kg~130kgくらいです。前足の手のひらの幅を計ると、成獣のオスの多くは13cm以上、メスの多くは13cm以下です。「13cm」が足跡でオスメスを判断する場合のひとつの目安となります。

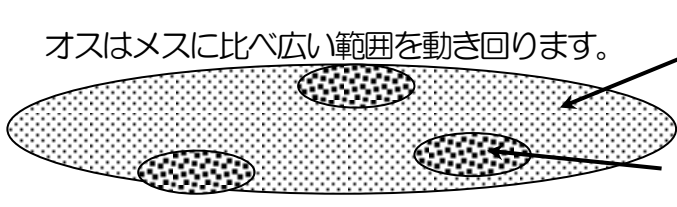


## ヒグマはどのくらい移動するの？

オスはメスに比べ広い範囲を動き回ります。

オスの行動範囲 最大数百km<sup>2</sup>

メスの行動範囲 数km<sup>2</sup>~40km<sup>2</sup>



北海道では、どこにヒグマがいてもおかしくありません。街の近くの野山でも、絶対に油断してはいけません。「ここに出没したことはないから・・・」この考えは危険です！

# ヒグマに注意

北海道留萌振興局保健環境部環境生活課

## ヒグマとの突然の遭遇を避けよう！

- ◆ 鈴を鳴らすなど音を出して、ヒグマに人間の存在を知らせる。
- ◆ 目立つ服装をして単独行動を避ける。
- ◆ 足跡などの痕跡があったら、すぐに引き返す。
- ◆ 朝夕の活動を避ける。(朝夕はヒグマの行動も活発になります)

最初から人を襲おうと考えているヒグマはほとんどいません。バッタリ出会ったとき、人間だけでなくヒグマも驚いています。驚いたヒグマは必死で自分の身を守ろうとして、人に襲いかかることがあります。(過去に起こった事件の多くの原因と考えられています)

## ヒグマのことをよく理解しよう！

- ◆ ヒグマの習性などをよく理解する。
- よく知っていれば様々な対処が出来ます。

## ゴミは必ず持ち帰ろう！

- ◆ ゴミを捨てない。
- ヒグマにゴミの味をおぼえさせないことが大切です。

## 出会ってしまったら

- ◆ 落ち着くこと！絶対に走って逃げない。
  - ◆ クマを見定めながら静かに立ち去る。
- ☆完全な方法はありません。大切なのは出会わないこと。

## 山菜採りは特に注意

- ◆ 山菜はヒグマの主食です。
- ◆ 餌の少ない春先には、山菜のある場所はヒグマの餌場になっていることが多いのです。

## 北海道における人身被害発生状況 (平成元年度以降)

山菜採り	27人
山林作業	15人
合計	42人

## はじまりはたった一つの空き缶でした・・・

ある日、1人の登山者が山でジュースの空き缶を捨てました。



缶の中には、ほんの少しの飲み残しがありました。飲み口から甘〜いにおいがします。1頭のヒグマがそれを見つけ、かじったりなめたりしたところ、とても甘く魅惑的な味でした。

その時以来ヒグマは山の中にあるゴミや空き缶をあさるようになりました。そして、そんなある日・・・ヒグマは、それが人間の捨てたものであることを知りました。



「人間=缶ジュース・ゴミ。人間は怖いけどがんばって近づいてみよう！」



人間の家のそばにもおかまいなく近づいて、積極的にゴミをあさるようになりました。

「あちこち歩き回らなくても簡単に食べ物が入ると。ここに居座ろう！」



すっかり人を恐れなくなってしまいました。さらには、人が近づくと「自分の食べ物が取られる」と思い込んで、人を襲うようにまだまになってしまいました。

結局このヒグマは射殺するしかなくなりました・・・

これは、私たちが「ゴミを捨てない」ということで防げる悲劇なのです。